

[成果情報名] 台木の種類が「はるみ」の生育、収量、果実品質に及ぼす影響

[要 約] 隔年結果性が強い「はるみ」の台木を「シングルシトロメロ」にすると、慣行の台木であるカラタチよりも隔年結果が軽減され、生育、収量、果実品質は同等である。

[キーワード] はるみ、台木、隔年結果

[担 当] 静岡農林技研・果樹研セ・新商材開発研究

[連絡先] 電話 054-334-4853、電子メール kaju-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 果樹

[分 類] 技術・普及

-----  
[背景・ねらい]

「はるみ」は高品質果実が生産されるが、カラタチ台では隔年結果性が強い性質がある。そこで高品質果実の安定生産を目指し、適性のある台木を選抜するために「はるみ」の5年生から10年生樹までの生育および収量、果実品質に各種台木が及ぼす影響について検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 「はるみ」の樹の大きさは「トロイヤーシトレンジ」、「シングルシトロメロ」台、Kn・P48台がカラタチ台より大きい傾向であったが明らかな差がない(図1)。
2. 年ごとの収量および5年間の累積収量は重量、果数とも明らかな差がなかった。また、隔年結果の強度は「シングルシトロメロ」で小さい傾向にある(図2、表1)。
3. 果実品質については、糖度、クエン酸は明らかな差がない(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 苗木生産には「シングルシトロメロ」の種子を確保する必要がある。
2. 隔年結果をより効果的に軽減するには、摘果や剪定など、他の栽培管理技術を組み合わせる必要がある。

[具体的データ]

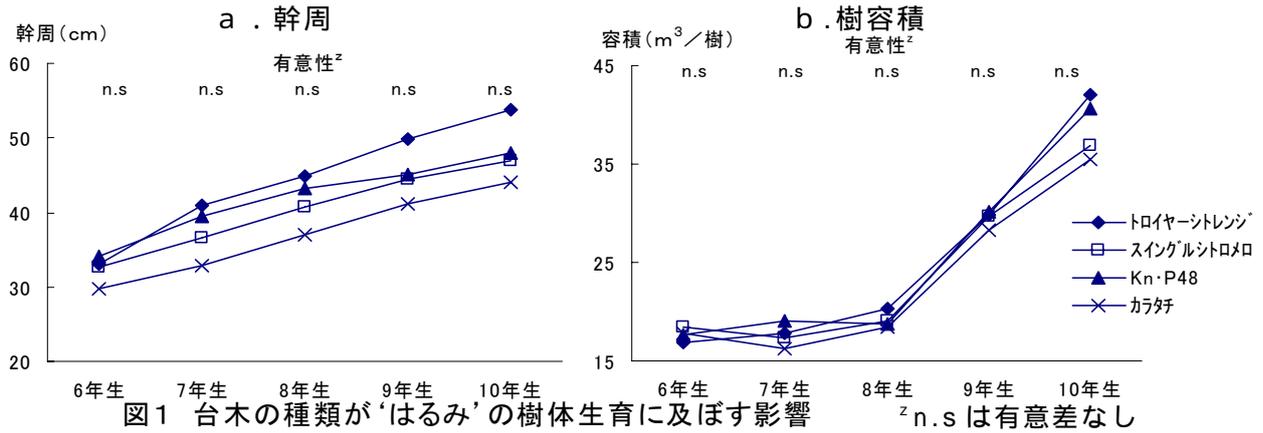


図1 台木の種類が‘はるみ’の樹体生育に及ぼす影響 <sup>z</sup>n.sは有意差なし

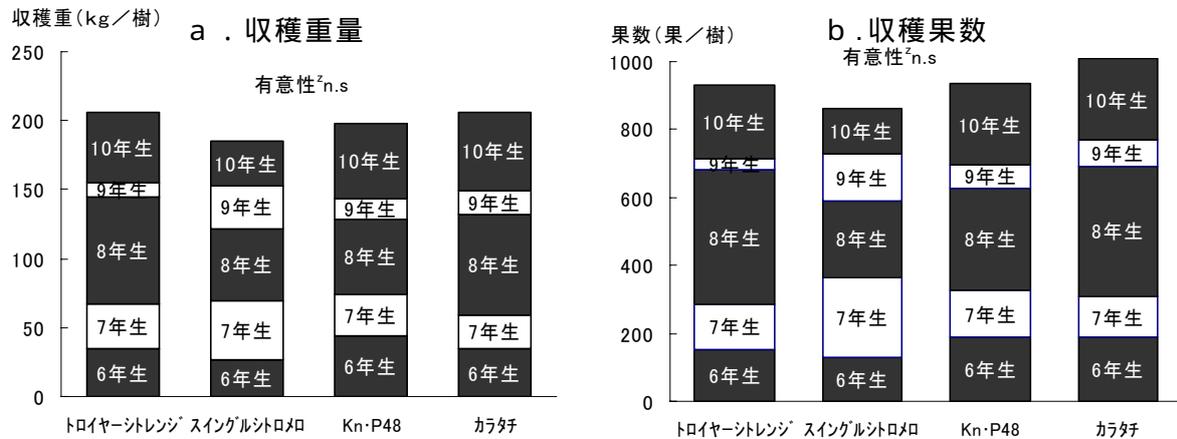


図2 台木の種類が収量に及ぼす影響 <sup>z</sup>n.sは有意差なし

表1 台木の違いが隔年結果強度に及ぼす影響

台木の種類	隔年結果強度 <sup>z</sup>	<sup>z</sup> 移動平均値 (W) = (前年収穫重量 + 当年収穫重量 × 2 + 次年の収穫重量) / 4 収穫重量の年次変動の大きさ (V) = (当年収穫重量 - W) の絶対値 / W × 100 隔年結果強度 = V / N
トロヤートレンジ	51.9	
シングルトロメロ	12.3	
Kn・P48	40.8	
カラタ	50.2	

表2 台木の種類が‘はるみ’の果実の糖度およびクエン酸に及ぼす影響 <sup>z</sup>n.sは有意差なし

台木の種類	糖度						クエン酸 (%)					
	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	平均	6年生	7年生	8年生	9年生	10年生	平均
トロヤートレンジ	12.4	10.8	11.0	12.7	11.6	11.7	0.85	0.89	1.16	0.78	1.02	0.94
シングルトロメロ	12.3	11.6	11.9	12.1	11.6	12.0	0.82	0.97	1.21	0.95	0.96	0.98
Kn・P48	13.1	10.9	11.8	13.0	11.8	12.2	0.89	0.94	1.11	1.02	1.08	1.01
カラタ	12.3	11.2	11.9	12.2	11.3	11.9	0.90	0.84	1.28	0.99	1.08	1.00
有意性 <sup>z</sup>	n.s	n.s	n.s	n.s	n.s	-	n.s	n.s	n.s	n.s	-	-

[その他]

研究課題名：省力化安定生産に適した台木品種の開発

予算区分：県単

研究期間：2003～2007年度

研究担当者：馬場明子、佐々木俊之